

真夏の京都御苑

7月下旬に京都で研究会があった。地下鉄烏丸線「今出川駅」で降り、京都御苑を突き抜けて京大に向かった。猛暑ではあったが、「時間調整」もあり御所を取り囲む御苑を散策することにした。京都御苑は約63haの広さがあり、皇居御苑や新宿御苑と並び、国民公園に定められている。広々とした御苑には、約5万本の樹木が生育して、木陰に入ると涼しさを感じられた。「京都御苑は森の博物館」と案内されていた。



朝日新聞夕刊で8月10日から「狙われた御所 古都の戦争と平和」という特集が連載された。京都御苑を散策したこともあり、特集記事を興味深く読んだ。都が京都におかれた時期の後半、500年以上にわたり現在の御所は皇居だった。ここが1度だけ空襲を受けたことを示す記録が残るといふ。結果的に御所は戦火から救われたが、「建物疎開」の名のもとに貴重な建築物が取り壊された。御所で壊された建物の総面積は約6000平方メートル、全建築物の3分の1にあたる。「古都に受け継がれた文化をも奪い去った戦争。その余波は、豊かな自然環境さえのみ込んでいった。」森の博物館としての御苑の自然も、戦争という時代を経て現在に至っているのだ。

「激動の時代、そのうねりに巻き込まれ続けた御所と御苑。この国民の財産をどう活用していくか。残された資料をひもとき、私たちがたどった歴史を知ることが、未来の継承につながるはずだ」と特集を締めくくっている。

(2009年8月22日 記)